

計画策定にあたって

本市では、平成28年3月に「福井市観光振興計画（平成28～32年度）」を策定し、「また来たくなるまち ふくい」を基本理念に、これまで様々な観光施策を推進してきました。計画期間中には、JR福井駅西口「ハピリン」の完成（28年4月）や、中部縦貫自動車道永平寺大野道路の全線開通（29年7月）「福井しあわせ元気」国体・障スポ（30年10月）の開催など大きな出来事が続き、北陸新幹線金沢開業効果もあり、観光客入込数が大きく増加しました。

この勢いを令和3年開催の東京オリンピック・パラリンピック、そして令和5年春に控える北陸新幹線福井駅開業、さらには中部縦貫自動車道全線開通、令和7年の大阪・関西万博まで一気に加速させ観光施策の充実を図るために『新・観光振興計画』を策定します。

現状と課題

（1）現計画の総括

8つの数値目標のうち、市内観光客入込数、市内観光消費額、まちなか観光客入込数、観光案内所の案内人数、外国人宿泊者数の5つが最終目標値を達成しました。

福井市を訪れた方の好意的な意見の割合については、最終目標値には届かなかったものの順調に推移し、一乗谷朝倉氏遺跡観光客入込数、越前海岸観光客入込数については最終目標値に及びませんでした。

なお、一乗谷朝倉氏遺跡については日本遺産の認定やテレビ番組で取り上げられたことなどの影響により、令和元年の入込数は105万6,700人でした。

（2）本市の課題

旅先としての福井の認知度不足・情報発信不足
福井ならではの、福井のイメージがない、ブランディングができていない

国内外の観光客に対する受入環境が不十分
素材の魅力不足、ニーズへの対応不足

市民が福井のことを知らない、ネガティブ
他人事である、役割分担がなされていない

市内観光客入込数と市内観光消費額の推移



現計画の数値目標

数値目標	単位	H27 (基準値)	H32 (目標値)	H30 実績
市内観光客入込数	万人	388	400	419
市内観光消費額	億円	231	255	272
一乗谷朝倉氏遺跡観光客入込数	万人	108	110	72
まちなか観光客入込数	万人	129	140	173
越前海岸観光客入込数	万人	47	50	41
観光案内所の案内人数	人	42,300	50,000	74,961
福井市を訪れた方の好意的な意見の割合	%	85.0	95.0	93.4
外国人宿泊者数	人	10,500	16,000	22,800

これからの観光戦略

（1）策定のポイント

平成31年4月に嶺北10市町（大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市、永平寺町、池田町、南越前町、越前町）と形成した『ふくい嶺北連携中枢都市圏（以下、連携中枢都市圏）』の中心都市として、圏域全体の情報発信、観光誘客に取り組むことを明確に本市の観光戦略に組み込みました。

高速交通網、特に北陸新幹線福井開業を目前に控え、観光客の出発地である首都圏でどのような誘客プロモーションを実施するのか、また、観光客の到着地である福井においてどのような受入環境を整備するのかといった「発地」「着地」の2つの視点で計画を策定しました。

*「発地」においては、福井の魅力や情報を強力に発信するため、JR6社の販売戦略が決まる令和4年度までの3年間を強化期間として首都圏に向けた開業プロモーションを行います。

*「着地」においては、連携中枢都市圏のおもてなし強化をはじめとする受入環境整備を行います。

連携中枢都市圏市町をはじめ、県、観光関連団体、交通事業者、サービス事業者、企業、そして市民が一体となった「オール福井」でのおもてなし強化を図ります。

（2）基本理念

本市の観光振興に重要なことは、市民が人や歴史文化、自然、食など「福」の宝庫である福井に対し、福井人として誇り、自信を醸成するとともに、おもてなしの充実強化を図ることで、本市を来訪される方に、人や歴史文化、自然、食といった福井の日々の暮らしの中にあふれているいろいろな「福」を感じていただくことにあります。

国内外の観光客が訪れる県都の玄関口として、福井市域を超えた連携中枢都市圏の都市の産業、歴史、風土などの資源を一体的に活用し、観光客が「福」を感じる観光を目指します。

めざす姿

日々の暮らしにある「福」があふれるまち～ オール福井で取り組む福井周遊の玄関口～

（3）施策の方向性

本市の課題を解決し、上記基本理念を実現するために、観光と関連性の高い様々な施策を以下の「施策の方向性」に沿って進めていきます。

本市の課題	課題解決に向けた施策の方向性
旅先としての福井の認知度不足・情報発信不足	福井ならではのブランディングと戦略的な観光プロモーション
福井ならではのイメージがない、福井のイメージがない	
国内外の観光客に対する受入環境が不十分	選ばれるための魅力づくりと国内外の旅行者をもてなす受入環境の整備
素材の魅力不足、ニーズへの対応不足	
市民が福井のことを知らない、ネガティブ	
他人事である、役割分担がなされていない	

(4) 観光拠点

「一乗谷」「まちなか」「越前海岸」を本市の観光拠点とします。

(5) 数値目標

計画の進行状況を確認し着実に目標達成につなげていくため、数値目標を定めます。

指標名	単位	H30実績	R1目標	R6最終目標値
1 ふくい嶺北連携中枢都市圏観光客入込数	万人	2,295.3	2,314.4	3,060.0
2 市内観光客入込数	万人	419	420	525
3 市内観光消費額	億円	272	274	366
4 一乗谷朝倉氏遺跡観光客入込数	万人	72	90	139
5 まちなか観光客入込数	万人	173	175	222
6 越前海岸観光客入込数	万人	41	50	53
7 観光案内所の案内人数	人	74,961	75,000	148,000
8 福井を訪れた方の好意的な意見の割合	%	93.4	94.0	96.0
9 外国人宿泊者数	人	22,800	24,000	75,000

(6) 施策体系及び行動計画

< 施策の方向性 : 発地 > 福井ならではのブランディングと戦略的な観光プロモーション

戦略1 新エリアブランディング

連携中枢都市圏の新エリアをブランディングして打ち出し、様々な観光施策を実施します。

基本施策	行動計画
1 福井のイメージの明確化、ブランディング	ブランドタグライン、ロゴ、プロモーションツール等の制作 イメージポスター及び動画の制作 観光誘客 Web 広告制作、プロモーション
2 観光誘客プロモーション	JR や県と連携した共同プロモーション 首都圏旅行会社の旅行商品造成支援、ファミツアー*1の実施 ターゲットにあわせた広告媒体タイアップ ファン育成に繋がるモニターツアー、商業施設タイアップイベント等の開催 観光大使や一乗谷 Discovery Project など著名人等によるプロモーション 都市間交流による広域連携プロモーション

3 観光情報のデジタル化と情報発信・営業の強化	観光ポータルサイト*2の構築によるエリア情報の一元化 商談会等での旅行商品造成営業や観光情報提供会等を利用した観光情報の提供 福井ならではのホンモノに触れる教育旅行、学生合宿、MICE*3誘致
4 台湾を中心としたインバウンド誘客の強化	外国人旅行者向け情報サイトへの積極的な情報提供及び発信 台湾を中心とした海外での観光商談会参加、旅行博への出展 外国人旅行者向け観光周遊ルートの構築 外国人目線でのふくいの魅力発信
5 福井ゆかりの人物と福井の関係等を活かした番組誘致、撮影支援	歴史上や福井ゆかりの人物と福井の関係を活かした番組誘致 テレビ番組制作、CM制作、映画などの撮影支援
6 観光動態調査等による観光ニーズの把握	インターネットによる観光動態調査の実施 観光地や出向宣伝先でのアンケートによる調査の実施
7 ふくいの宝を再認識するインナープロモーション*4	市民出前講座等の機会を捉えた機運醸成

< 戦略2 福井ジェニック戦略 >

若年層の旅行ニーズ及び SNS 利用を喚起させ、特に女性や若年層の旅行機運を醸成する。

基本施策	行動計画
8 フォトジェニック創出、インフルエンサー等による情報発信	戦略1に基づくジェニック戦略の立案 フォトジェニック*5スポット・食の創造(整備) インフルエンサー*6やファン育成モニターツアー、Webメディアタイアップ等によるプロモーション

施策の方向性 : 着地 > 選ばれるための魅力づくりと国内外の旅行者をもてなす受入環境の整備

1 おもてなしの充実、2 ICT 技術を活用した観光情報・素材のデジタル化、3 お客様目線の受入環境整備、4 オール福井・自分事として取り組む、5 ターゲット別の「集客できる」素材の発掘・磨き上げの5つの基本施策を掲げるとともに、観光客の行動、場面に分類し、それぞれの行動計画をまとめました。

	基本施策	行動計画
調べる	1 おもてなしの充実	広域観光情報を発信する JR 福井駅東口観光案内所の整備
	2 ICT 技術を活用した観光情報・素材のデジタル化	観光ポータルサイトの充実 観光パンフレットのデジタル化
	3 お客様目線の受入環境整備	外国人旅行者向け情報サイトへの積極的な情報提供及び発信(再掲) 福井の食を紹介するパンフレットの作成
	4 オール福井・自分事として取り組む	Wi-Fi 環境の整備拡充 観光従事者や市民に観光スポットや食を理解してもらう場の設定

移動する	2 ICT 技術を活用した観光情報・素材のデジタル化 3 お客様目線の受入環境整備	二次交通情報の充実及び Google 等での経路検索対応、利便性向上 まちなかにおける大型バス駐車場の充実 3つの観光拠点における案内サインの充実（多言語対応） キャッシュレス化の導入促進 観光施設等を結ぶ交通アクセスの充実と観光型 MaaS*7の検討
楽しむ	5 ターゲット別の「集客できる」素材の発掘・磨き上げ	滞在時間延長につながる五感に響く体験メニューの充実 県外誘客に繋がるふくい桜まつりと福井フェニックスまつりの見直し One Park Festival など大規模イベントを活用した観光誘客 SNS 映えするスポットの整備 滞在時間に合わせた観光周遊ルートの形成 一乗谷朝倉氏遺跡博物館開館に向け県・団体と連携した取組み 観光まちづくり活動への支援、越前海岸の季節ごとのコンテンツを活かした魅力発信
食べる	3 お客様目線の受入環境整備 5 ターゲット別の「集客できる」素材の発掘・磨き上げ	3つの観光拠点における飲食店情報の集約 JR 福井駅周辺への福井の食を味わえる店舗の集積 福井の食の魅力が体験できる企画・取組への支援 SNS 映えする食の創出
買う	3 お客様目線の受入環境整備 5 ターゲット別の「集客できる」素材の発掘・磨き上げ	土産品購入場所の拡充 キャッシュレス化の導入促進（再掲） 福井ならではの魅力ある土産品やパッケージの充実
もてなす (もてなされ)	1 おもてなしの充実 3 お客様目線の受入環境整備 4 オール福井・自分事として取り組む	市民総ぐるみで取り組む観光おもてなし市民運動の充実強化 観光ガイド育成 観光・文化施設の必要に応じた整備・修繕 Wi-Fi 環境の整備拡充（再掲） 3つの観光拠点における案内情報の充実（多言語対応）（再掲） 観光関連団体や観光まちづくり団体との連携 若者の観光まちづくりへの参画

表中、網掛け部分は、インバウンド観光を推進する上においても重要となる行動計画です。

（２）推進体制及び進行管理

計画策定委員会を中心とした委員で構成する「福井市観光振興計画推進委員会」により、本計画の進行管理を行い、その効果を検証するとともに、状況に応じて基本施策について必要な見直しを行うなど、PDCA サイクルを回しながら、観光施策の改善を継続的に行っていきます。



《注釈》

- *1 誘客促進のため主に旅行会社等を対象に現地視察をもらうツアーのこと
- *2 ポータルサイトのポータルとは入口という意味があり、インターネットにアクセスするときの入口となるウェブサイトのことをいう
- *3 Meeting(会議)、Incentive travel(報奨・研修旅行)、Convention(大会、学会、国際会議)、Exhibition(展示会)の頭文字を取った造語
- *4 自分の街に対する愛着や誇りの向上のための市民に向けた啓発活動のこと
- *5 写真映えのこと
- *6 世間に与える影響が大きい人物のこと
- *7 Mobility as a Service (モビリティ・アズ・ア・サービス)の略で、出発地から目的地までの新幹線をはじめとする鉄道に加え、現地でのバス、電車、タクシー、レンタカー、レンタサイクル、カーシェアリングなどの交通機関をスマートフォンなどで検索・予約・決済することができる統合型サービスのこと。地域の観光素材やサービス、商品と組み合わせるなど観光に特化させたものが観光型 MaaS といわれる。

計画における役割分担と推進体制・進行管理

（１）役割分担

本計画は、県や連携中枢都市圏市町、（公社）福井県観光連盟、（公財）福井市観光協会をはじめとする観光関連団体、観光事業者、企業、そして市民が一体となって、それぞれの立場を活かせる役割分担のもと、オール福井の推進体制で進めます。